

新政府は自国民を守か

これまで政府はアメリカのために、自国民を守ろうとしなかった。日本政府は米国と一体であった。グローバルスタンダードをいうなら、政府が自国民の利益を守ることにこそ命を懸けるものです。政府発表はすべて官僚が作成し都合の悪いものは、条文を滑り込ませ、自分たちの省益を優先した。

魂を売り飛ばした政治家のもとで、その下の官僚は面従腹背が日常です。モラルもブライドも無き政治家では、省益を優先するのは自明です。カネを握ったところが、支配します。すなわち「財務省」が諸悪の根源？です。昭和のゾルゲでありませんが、洗脳した財務官僚の一部を支配させればこれが簡単に出来たのです。

当然ですが、結果は20年経っても若者は希望が持てず3万人を超える自殺者は一向に減らず、国民の生活は豊かになりません。売国の、自公政権によって国富が消尽したのです。これ

は明らかに「戦争」なのです。鉄砲と爆弾を使わない白兵戦です。地域の公益を

財務省

作られた財政危機

情報の流れる方向の根源に権力の主体がある。すなわち、権力の母体は政治家にあるのではない。

敗戦後の長期政権で危機感を喪失した政権は、現状を意識する事すら欠如してしまっ

た。意識は認識から生まれる。国民を認識もできない政権は歴史から消滅すべきなのです。官僚主導では国民が努力するほど景気が悪化する。このデフレ政策からは転換が出来

ないのです。国民は死んでいない。生きています。人がすべての

価値を創造して

います。財政危機はそも

そも財務官僚によって作られ、危機を煽るほど官僚の利権が強化される霞ヶ関の天下りのシステムです。

さつさと「西松建設」の戦況を分析、敵前逃亡した元警察官僚の「漆間蔵」はカスだ。強力な官僚達の市中引き回し「獄門さらし首」を実行すべきで、政権の権力行使とはそう言うものです。

果たして今度の元大蔵省官僚の藤井裕久（77才）財務大臣は、どれだけ期待できるでしょう。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年9月16日 (水) N062

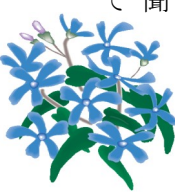
地域から明るい未来を作ろう

積極的な開放感

九年連続二百本ヒットの偉業を達成したイチローの言葉です。消極的な開放感でない、逃げないで真正面で受け止める。横綱相撲、サムライの精神です。イチローに学ぶものは、幼いときから目標を定め挑戦することをモチベーション（動機付け）として、そして考え抜いてい

るのである。自ら難易度を上げ、困難に挑戦し、自分の弱点や足りない部分を明らかにして、目標設定をし練習で克服している。ピンチは絶好のチャンスとして楽しんでる様にさ

え私には見える。これらの背景には、努力の量も質も凡人を超越していると思う。どの分野で自分が勝負したいのか、イチローは知っているのです。結果が出ないのは「追い込みが足りない」と自分に言い聞かせるので



西川経営オフィス

の品質は「人」です